

21世紀への胎動

海洋開発を軸にロマンのマチづくり

マリリン・ポリリス留萌構想

新春特集

エネルギー都市、海洋未来都市を目指す留萌市は、二十一世紀を展望する「マリリン・ポリリス留萌の創造」によるこびといきがいと文化のかおりとロマンたなよう海洋にもとめて」と題する「留萌市海洋都市構想」を策定しました。

この構想は海洋に秘められた無限の可能性と未来への展望をこめ、二十一世紀に向けての新生・留萌の新しい目標のひとつに設定しようと作成したものです。

その内容は、①マリリン・ポリリス留萌の構想と目標、②海洋開発を軸とした産業基盤構築のビジョン、③マリリン・ポリリス留萌の五章で構成され、海洋開発、エネルギー開発、観光・レクリエーション開発など一体となった機能の整備をすることにより、地域の新しい顔づくり、均衡のとれた地域振興、創造とゆとりあふれた生活システムの充実を図ろうというものです。

マリリン・ポリリスは超長期的プロジェクト

留萌市が進めているマチづくりの指針は、「留萌市新総合計画」(五十二年～七十二年)で示されている快適で安全な都市、福祉都市、港湾を核とした活力ある産業都市、文化都市です。

現在、本市はこのマチづくりを旨とし、各種の施策を進めています。マリリン・ポリリスはこの都市像を包括し、施

策を達成するうえでの超長期的プロジェクトと位置づけています。

21世紀の都市像とマリリン・ポリリス

やがて来る二十一世紀、その時代に対応できる留萌市の都市像を、海の資源を活用し地域の風土、文化を通じて確固たる個性をもち、独自の産業基盤を背景とした定住自律型都市と描いています。

マリリン・ポリリスの建設は、

その描かれた都市像を実現させるための施策の一環として位置づけられています。

マリリン・ポリリスの計画目標

マリリン・ポリリスの基本理念は「海洋の資源と地域文化を結んだ高度産業都市の創出」と定めています。

この基本理念は、産業基盤の充実によって都市を活性化させるため産業振興を最優先課題とし、最先端技術産業の

ひとつである海洋関連開発に地域文化を加味した「高度産業都市」を実現させることを目指しています。

マリリン・ポリリスの基本理念

マリリン・ポリリスの計画目標は、次のとおりです。

(1) 海洋開発基地づくりを通して、つぎの世代に受けつぐべき地域の新しい姿をつくること。

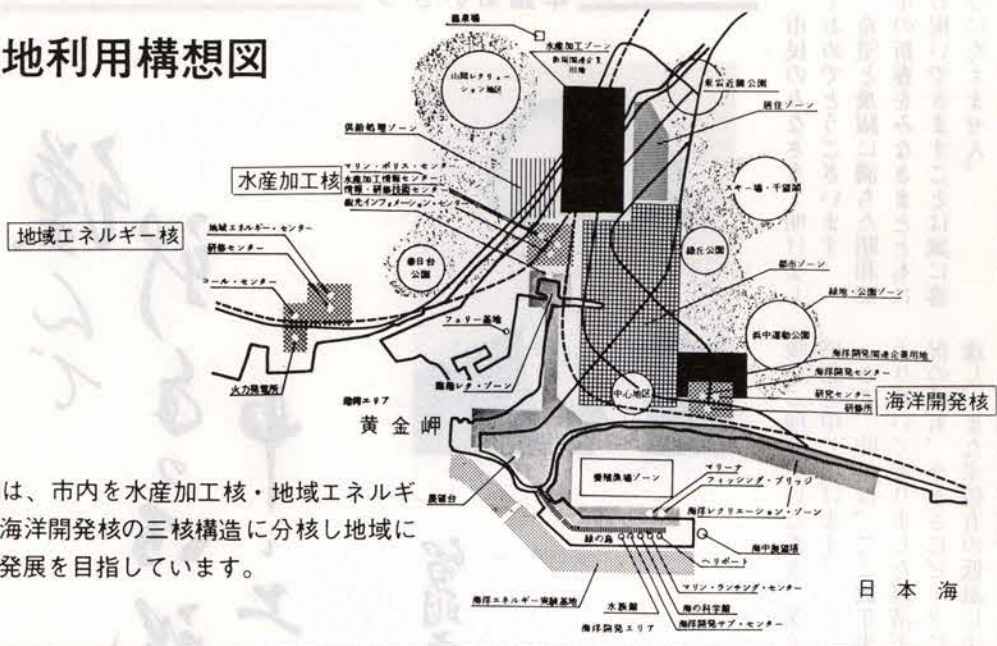
これは、海洋開発に関する

基礎研究から応用研究や試験研究を進める過程でのモデル実験研究を契機に将来的には恒久的な海洋開発基地化を図るといいます。

(2) すでにある産業と海洋開発に関連した新しい産業の結びつきを緊密にし、均衡のとれた地域の振興を図ること。

これは、既存する産業の先端分野への進出促進、海洋を中心とする関連産業の導入を促進し、また関連圏域内企業との結びつきの確保を進め、

土地利用構想図



この図は、市内を水産加工核・地域エネルギー核・海洋開発核の三核構造に分核し地域に合った発展を目指しています。

産業の高度化、複合化を図るといいます。

(3) 健康と心のふれあい、創造とゆとりあふれた生活機構の充実を図ること。

これは、美しい海をはじめとする自然ときれいな空気、歴史的文化遺産などがとりまき、ゆとりある「マチづくり」を創出するものです。

土地利用構想

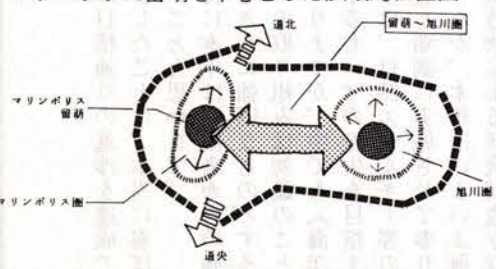
土地利用についての構想は上図のように想定しています。その構想は、全体をバランスよく発展させるため水産加工核・地域エネルギー核・海洋開発核の三核構造システムを取っています。

- 水産加工核
- 地域エネルギー核

水産加工業はマリリン・ポリリスにおいて産業の中核としており、水産加工情報・技術センター、新規関連企業(高度技術加工業など)を留萌川沿岸に配置し、排水処理などの作業を便利にしています。

地域に存在しているエネルギーを再利用し、地域住民に

マリリンポリリス留萌を中心とした広域的な位置図



還元して「マチづくり」を促進させるため、留萌港に隣接した場所に石炭供給基地やエネルギー関連産業、地域エネルギー研究機関を配置するものです。

- 海洋開発核

海洋研究、実験機能は、技術向上や新規関連産業の開発が目的です。

そのため海洋開発に係る情報などを集中させるため海洋開発核を形成するもので黄金岬沖に人工島「緑の島」を建設し、海洋開発エリアの中心とします。

波力発電など海洋エネルギー実験基地、海洋牧場センター

21世紀の時代

このように「マリリン・ポリリス留萌構想」は、全機能、全域がバランスよく発展することを方針に策定したものです。そのために水産加工核(既存産業の活性化)・地域エネルギー核(エネルギーの利用)・海洋開発核(海洋の積極的利用)の三つの核を配置するシステムをとり、市の中央・北部・南部のそれぞれ最も効率のよい場所に各々の核を設定し、それを中心に諸機能を配置したものです。

いづれにしましても、この構想を具体化するにはいろいろと解決しなければならぬ課題があります。21世紀へはばたく留萌を目指し、この構想の実現に向けて取り組みが進められます。